

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和2年度農作物病害虫発生予察情報について

令和2年度農作物病害虫発生予報第9号を発表したので送付します。

令和2年度農作物病害虫発生予報第9号

令和2年10月5日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

トビイロウンカ (8月13日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 9月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%、株当たり寄生虫数が1.23頭と平年(37.9%、0.18頭)に比べて高い。

(2) 高松地方气象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特に県西部地域の10月中旬以降に収穫を迎える作型について、発生が認められた場合は、薬剤等により防除を行う。

II. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬の温州ミカンの巡回調査では、発生圃場率が100%、寄生葉率が11.0%と、平年(59.8%、4.4%)に比べて高い。

(2) 高松地方气象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第5・6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が17.3%, 発病果率が0.4%)。
- (2) 7月第6半旬に行った新梢における発病調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が2.0%, 新梢発病率が0.02%)。
- (3) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており, 発生にはやや抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 9~11月の降雨は果実の被害を激しくするため, 発病果が認められる場合は, 薬剤による追加防除を行う。

果樹共通

カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少~中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月におけるツヤアオカメムシ及びチャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数は, 勝浦町では, 平年に比べて低く推移している。また, 上板町では, ツヤアオカメムシは, ほぼ平年並に推移し, チャバネアオカメムシはやや高く推移し, 9月第5半旬以降, 平年より低く推移している(表1)。
- (2) 9月第5・6半旬におけるカキの巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が12.0%, 被害果率が0.2%)。

表1 勝浦町および上板町における予察灯への各種カメムシ類の誘殺虫数

ツヤアオカメムシの誘殺数

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2020年	2019年	2018年	2017年	平年	2020年	2019年	2018年	2017年	平年
9.1	1	97	116	11	75	9	16	10	63	17
9.2	5	128	396	64	111	19	23	29	32	14
9.3	14	36	181	63	106	15	8	21	61	16
9.4	22	6	856	123	142	9	6	10	14	9
9.5	21	27	619	410	186	14	23	14	42	16
9.6	11	133	150	524	192	4	33	18	166	40

チャバネアオカメムシの誘殺数

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2020年	2019年	2018年	2017年	平年	2020年	2019年	2018年	2017年	平年
9.1	16	117	169	23	90	44	19	31	174	38
9.2	24	273	488	105	188	52	15	57	124	30
9.3	25	47	193	66	121	38	6	23	127	22
9.4	53	22	1499	64	229	26	2	13	37	8
9.5	31	10	882	93	216	5	4	12	69	12
9.6	9	31	124	145	90	0	11	2	40	7

- (3) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので, 園内を巡回し飛来に注意するとともに, 飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では, 発生圃場率が75.0%, 寄生株率が13.3%と, 平年(56.0% 8.8%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では, 発生圃場率が18.8%と, 平年(14.8%)に比べてやや高いが, 10株当たり寄生幼虫数及び蛹数は0.1頭と, 平年(0.1頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では, 発生圃場率が50.0%と, 平年(32.7%)に比べてやや高く, 寄生株率は6.3%と, 平年(3.7%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので, 早期発見に努め, 若齢幼虫時に防除を行う。

モンシロチョウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では, 発生圃場率が6.3%, 10株当たり寄生幼虫数が0.01頭と, 平年(9.6%, 0.04頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
 - (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生にはやや助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難となるので、定期的に薬剤を散布して予防する。
 - (2) 肥切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、寄生株率が0.2%と、平年(2.2%、0.0%)に比べて高い。
 - (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中～多」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が66.7%と、平年(39.2%)に比べてやや高いが、寄生株率は1.8%、株当たり寄生虫数は0.4頭と平年(4.4%、3.5頭)並の発生である。
 - (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、発生初期に徹底防除する。
 - (2) フェロモン剤の交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%と、平年(32.1%)に比べてやや高いが、寄生株率被害度は0.6と、平年(1.6)並の発生である。
 - (2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

- 1) 予報内容
発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、被害度が0.6と、平年(90.0%、13.3)に比

べて低い。

(2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ (7月17日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が75.0%、寄生株率が13.5%と、平年(37.8%、5.0%)に比べて高い。

(2) フェロモントラップの定点調査では、6月第4半旬～7月第3半旬にかけ、平年より多く誘殺されていたが、以降、概ね平年並に推移し、9月第1～3半旬は増減を繰り返しながら、4半旬以降、ほぼ平年並に推移している(図1)。

(3) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

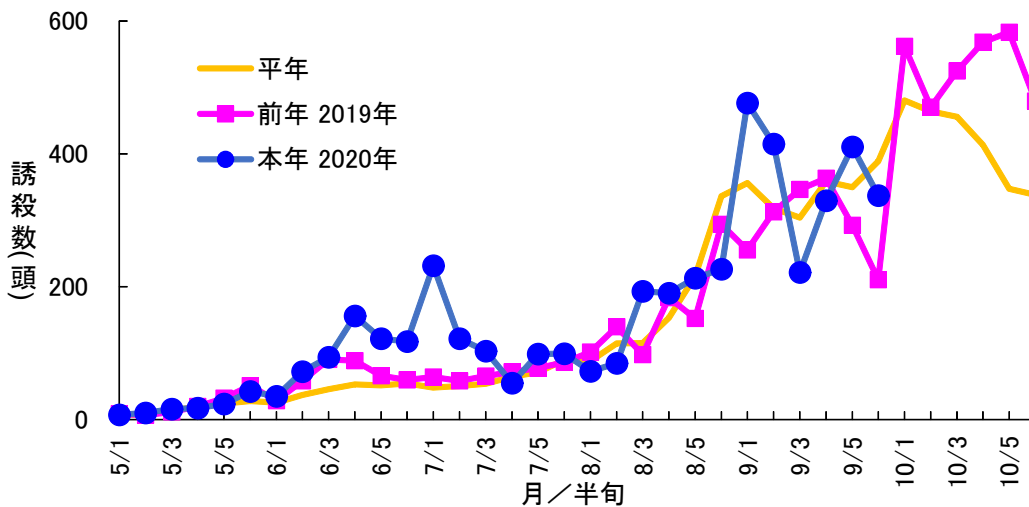


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(32.7%)に比べてやや高く、寄生株率は6.3%と、平年(3.7%)に比べて高い。

(2) 9月第6半旬における秋冬ネギの巡回調査では、発生圃場率が66.7%と、平年(39.2%)に比べてやや高いが、寄生株率は1.8%、株当たり寄生虫数は0.4頭と、平年(4.4%、3.5頭)並の発生である。

(3) フェロモントラップ定点調査では、7月6半旬～8月6半旬にかけ、概ね平年並に推移していたが、以降、平年より高く推移している(図2)。

(4) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

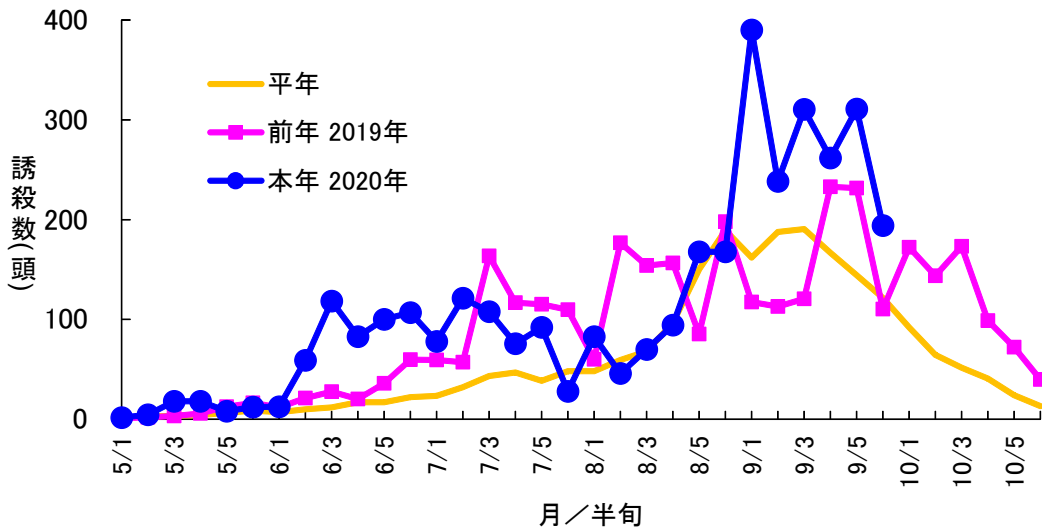


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の7地点平均

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) フェロモントラップ定点調査では9月第1・2半旬は平年より高く、以降、平年より低く推移し、第6半旬は平年に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が10月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の中旬以降は平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

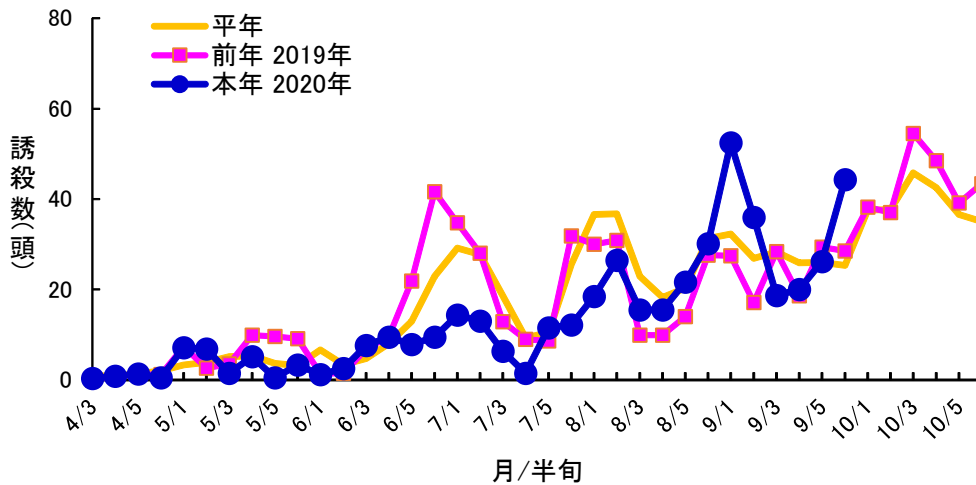


図3 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市,三好市,東みよし町,石井町の6地点平均

IV. その他

1. ハスモンヨトウをはじめとする食葉性害虫等の発生が多くなる時期である。野菜類の定植後には圃場を見回り、発生を確認したら速やかに防除すること。
2. 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。